

かしこいクルマの使い方

Vol.1

藤井 聡



ほんまにやばいで
バス交通

東京や大阪などを除くほとんどの地域で、バスよりクルマの方が圧倒的に便利です。数時間に1本しかバスが来ない、という地域は日本中にたくさんあります。しかし、一昔前にはバスはもつと走っていて、お客さんも決して少なくなかったのではないのでしょうか。なんで、こんなに「やばい状況」になっしまったのでしょうか？

まず、バスが使われない最大の理由は「バスが不便だから」です。もしも自宅や目的地の近くにバス停があって、しかも、いつも乗りたいときにバスが来る人はずっと多いでしょう。では、なぜ、バスはいつも来ないし、いろいろな所にバス停ができないのでしょうか。それは、「お客さんが少なけれ

ば、バスをたくさん走らせることができないからです。例えば、お客さんが一日に10人前後しか乗らないようなバス停に、1時間に5本も10本もバスを走らせたら採算がとれなくても仕方ないのではないのでしょうか。

つまり、バスが不便なのはお客さんが乗らないからで、お客さんが乗らないのはバスが不便だからなのです。この「悪循環」がここ数十年続いています。このまま続けば、数十年後には一部の地域を除いて日本からバスが無くなっているかもしれません。そんな時代がきてしまつたら、クルマの運転ができなくなつた高齢者や子供達はどうか？ 龍ヶ崎に電車やバスで来た免許の無い人達は、どうすればよいのでしょうか？

そうなのです。バスの問題は、実は、地域全体の問題なのです。そう考えれば、「一回利用すれば、その分だけ、地域のバスを未来に残せる」と考えて、クルマの代わりに少しずつバスを利用するのも、ええことがもしれません。

△ふじい・さとし△

東京工業大学助教授。1968年奈良県生、京都大学卒業。JAFMATE「交通百葉箱」2001、2002年に連載。著書「社会的ジレンマの処方箋」ほか多数。

バスはいろいろな「道」を走ります

はじめまして。横浜国立大学で都市交通を勉強している中村文彦です。このコーナーでは、街中を走るバスについて、世界の工夫した例を紹介していき、バスというの捨てたものではないということをお伝えしていこうと思っています。まずはバスの通り道についてです。バスが時間通りに来ないという不満は、あちらこちらで聞かれます。

世界バス紀行



中村 文彦

道路の渋滞に巻き込まれるのが、その大きな原因です。これは別に日本に限ったことではなくて、世界中の至るところで見られます。

では、解決方法にはどのようなものがあるのでしょうか？もっともわかりやすいのは、バスしか通れない道をつくることです。日本でも車線数の多い幅の広い道路では、時間帯を区切ってバス専用の規制をかけている例がありますが、警察の取り締まりがないと、違反走行する車両や路上駐停車があとを絶たず、十分には機能していません。写真1にあるように、他の車両が入れないように区切ってしまえば、専用道路として、十分に機能します。

こういう例は、海外では決してめずらしくなく、写真のインドネシアのジャカルタ市以外にも、台湾の台北市や、遠いところでは、ブラジルのクリチバ市やポルトアレグレ市にもあります。開発途上国の例が多いですが、カナダのバンクーバー市やオタワ市、ベルギーのリエージュ市やフランスのニース市などにもあります。日本にもほんのわずかですがあります。昨年廃止されてしまいましたが、北九州市の写真も載せておきます。



写真1 ジャカルタのバス専用道路 (縁石で区切られています)



写真2 北九州市のバス専用道路 (昨年廃止、フェンスで区切られていました)

中村 文彦 (なかむら ふみひこ)
横浜国立大学大学院環境情報研究院教授
東京大学卒業
専門は都市計画、都市交通計画、公共交通政策など